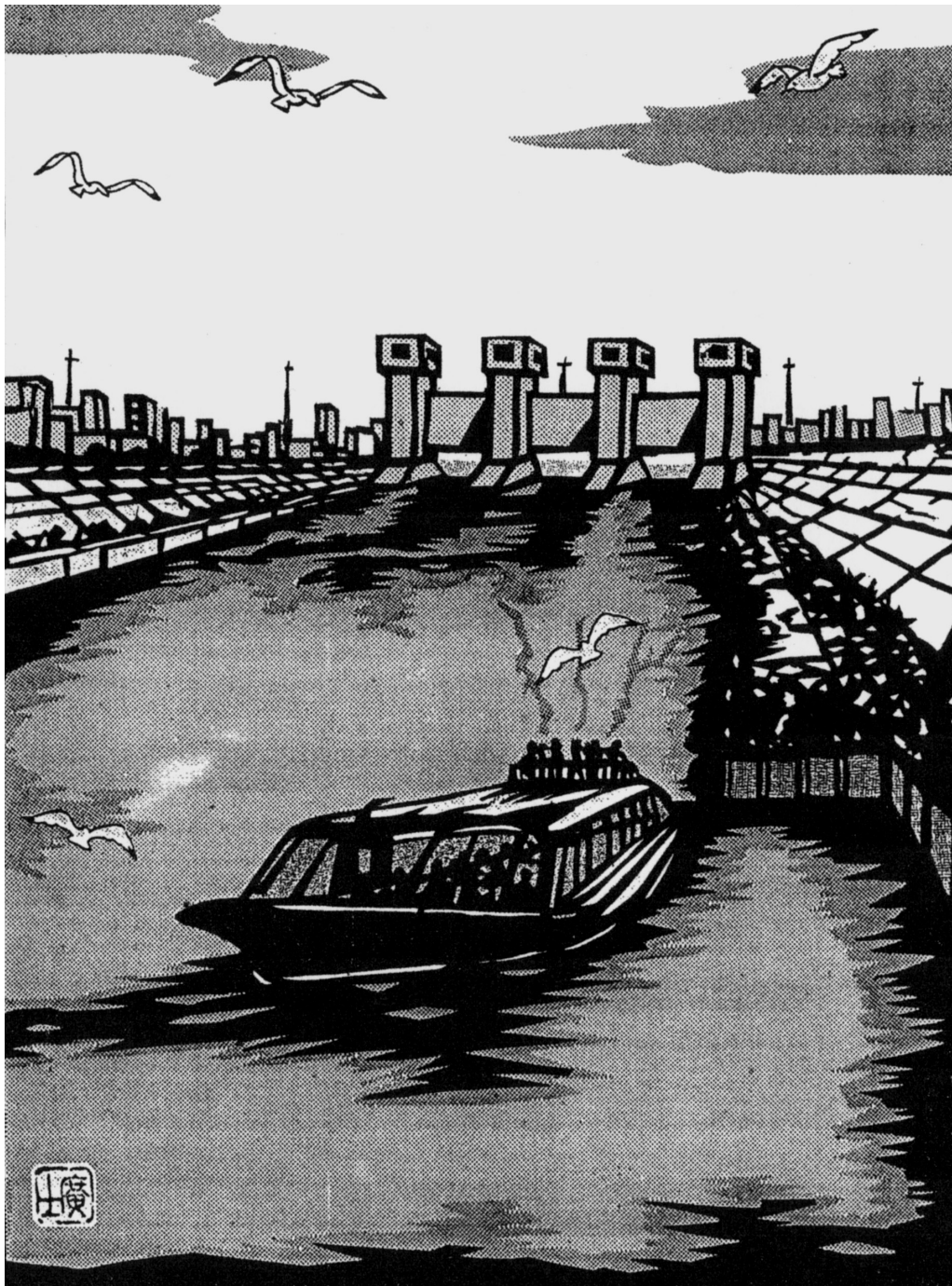


東京 肝臓のひろば

令和元年(2019 年)6 月号 第 230 号

特定非営利活動法人 東京肝臓友の会

〒161-0033 東京都新宿区下落合 3-14-26-1001
電話 (03) 5982-2150 振替 00120-6-40564
FAX (03) 5982-2151 口座名 東京肝臓友の会
<http://www.tokankai.com>

隅田川の岩淵水門 — 東京都・北区 —

切り絵と文・佐藤 廣士

報告
**日肝協、「第29回国会
要請行動、院内集会」**

5月28日(火)、衆議院第一議員会館、大会議室において、29回目となる日肝協主催、国会要請行動、院内決起集会が行われました。全国から日肝協、B型肝炎訴訟原告団、薬害肝炎全国原告団、総勢180名が参加、会場は熱気一杯になりました。

厚生省肝炎対策推進室大場室長をはじめ、与党肝炎対策推進議連の尾辻議員、榊屋議員、福岡議員、江田議員をはじめ、衆参の厚生労働委員を務める議員18名が会場に駆けつけ、昨年12月よりスタートした新たな医療費助成制度について、現状把握をしっかりと進めること、その結果、制度対象条件等の緩和を検討すべきであることなど、私たちと同じ思いを訴えられました。午後は、衆参厚生労働議員を訪問、請願署名を提出、患者の願いを実現してほしい旨、お願いしました。

東京肝臓友の会の会員の皆さんからの署名も含め、全国から集まった署名は64,000筆に及



挨拶に来ていただいた議員のみなさま

●2019年5月28日
**ウイルス性の肝がん・重度肝硬変患者の支援と
治療薬開発、肝炎ウイルス検診促進を求める
請願書**

請願団体 日本肝臓病患者団体協議会

びました。署名活動、募金のご協力、誠にありがとうございます！

請願項目と請願の理由

1

新たに始まったウイルス性の肝がん・重度肝硬変患者に対する医療費助成の実態調査を実施し、その結果をふまえて拡充を検討して下さい。

平成21年12月に成立した肝炎対策基本法の前文に「B型肝炎及びC型肝炎に係るウイルスへの感染については、国の責めに帰すべき事由によりもたらされ、またはその原因が解明されていないかつたことによりもたらされたものがある。」と記載されているように、多くの感染者は過去の血液行政や医療行政の不具合により感染し発症しています。

厚生労働省が平成29年3月に発表した『B型・C型肝炎によ

東京肝臓のひろば 230号

●もくじ

日肝協第29回国会要請行動・院内集会報告 …… 2

講演録1

「肝硬変と肝がんの新しい治療」

大阪大学大学院医学系研究科消化器内科学教授

一般社団法人日本肝臓学会理事長 **竹原 徹郎 先生** …… 4

講演録2

「肝硬変治療のこれから～肝臓の線維化を改善する新薬について～(後半)」 …… 18

都立駒込病院肝臓内科部長 **木村 公則 先生**

PBC・AIH・PSC通信 …… 32

ジコメンメディカルシンヤク …… 33

東京肝臓友の会 活動日誌(4月、5月) …… 34

情報BOX

患者会からの行事案内 肝臓病教室 …… 35

肝炎デーフォーラムごあんない …… 40



る肝硬変・肝がん患者における医療費等の実態調査』では、平成27年時点で病院に通っているウイルス性肝臓病の患者数は65万人、その内、重い肝硬変患者数は4.3万人、肝がん患者数は10.3万人です。この様に15万人が重いウイルス性肝臓病で苦しんでいます。

関係者のご支援とご尽力により、平成30年12月から肝がん・重度肝硬変患者に医療費助成が実施されました。重症者の支援を長らく望んできましたので、大変感謝

をしています。しかし助成の条件に該当する推定人数は7〜8千

名程度で、病状が大変重い多くの方は療養病床におられ、私達の周りには殆ど見当たりません。多くの肝がん・重度肝硬変患者が安心

をして治療でき社会復帰できるよう、新たな医療費助成の実態調査を実施し、その結果をふまえて対象者の拡充を検討して下さい。

肝がん・重度肝硬変の治療薬・治療法の開発と適用をいっそう促進して下さい。

肝がんに対する分子標的薬、免疫チェックポイント阻害剤、再発抑制薬等の開発や粒子線治療等の新しい治療法の適用、また現在対症療法に限られている重度肝硬変に対し根本治療薬の開発と適用をいっそう促進して下さい。

3 B型肝炎ウイルスを排除する治療薬の開発と適用をいっそう促進して下さい。

B型肝炎はウイルスを排除出来る薬がまだありません。肝炎ウ

イルスが排除されない限り、常に肝がん発症の危険性から免れることが出来ません。治療薬の開発と適用をいっそう促進して下さい。

潜在する感染者の検診と陽性者を受診・受療に結びつける施策をいっそう促進して下さい。

B型肝炎もC型肝炎も効果が高くなかつ副作用のない治療薬が開発されています。しかしまだ肝炎ウイルス感染を知らない潜在キャリア、感染を知らないながら継続的に受診をしていないキャリアがいます。潜在する感染者や受診・受療に結びついていない陽性者を掘り出し、受検・受診・受療に結びつけていくことが大切です。効果的なウイルス検診の実施と、妊婦検診陽性者のフォローアップ制度創設など陽性者の受診・受療をいっ

大場肝炎対策推進室長



大場肝炎対策推進室長

そう促進して下さい。

以上から、私達は下記の請願を致します。

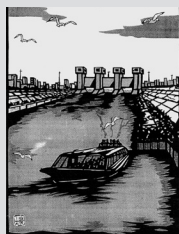
今号の表紙絵……………(再掲載)

「隅田川の岩渚水門」

—東京・北区—

荒川と隅田川の分岐点に岩渚水門がある。荒川は毎年のように洪水を繰り返していたので、明治政府は放水路を計画。1924(大正13)年水門が完成し、水量を調節している。ここからの旧下流が隅田川。作られた放水路が荒川放水路(荒川)といっている。

(きり絵と文 佐藤廣士)



東京肝臓友の会主催 2018年度医療講演会

「肝硬変と肝がんの新しい治療」

肝硬変と肝臓がんの新しい治療
～肝硬変の新薬と食事について～
主催:NPO法人 東京肝臓友の会 後援:一般社団法人 日本肝臓学会

大阪大学大学院医学系研究科消化器内科学 教授
一般社団法人日本肝臓学会 理事長

竹原 徹郎 先生

日時 2019年3月23日(土) 13:00～14:00

場所 TKP 御茶ノ水カンファレンスセンター

司会(米澤敦子) 定刻になりました。今日は満席になる申し込みがあったのですが、お天気も悪く、昨日と比較して10度ぐらい低く、集まりに少し影響しました。120名の会場ですれでも80名ぐらい来ていただいています。私は司会を務めます東京肝臓友の会の米澤敦子と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

東京肝臓友の会では、毎年1回大きな医療講演会を行うのですが、今年度は東京都の委託事業ということで3回の大きな講演を行っていきまして、今日がその3回目になります。委託事業として東京都からご支援をいただいていますので、2人の先生をお招きできました。

最初にご講演いただく竹原先生は、今日、大阪から来ていただきました。お話を伺うのは皆さんも初めてかと思えます。ここで竹原先生のご紹介を少しさせていただきます。1984(昭和59)年、大阪大学医学部をご卒業後、大阪大学医学部附属病院、米国マサチューセッツ総合病院などを経て、現在は大阪大学大学院医学系研究科消

化器内科学教授、大阪大学医学部附属病院の副病院長でいらつしやいます。それから、今日の講演会でも後援をいただいています、一般社団法人日本肝臓学会の理事長でもいらつしやいます。

では、竹原徹郎先生、ご講演をお願いいたします。(拍手)

竹原徹郎 皆さん、こんにちは。大阪からまいりました竹原と申します。よろしく願いいたします。1月頃に米澤さんから、この3月に肝硬変と肝がんの話をしてほしいこと、それから、少し広い話をしてほしいというご依頼を受けました。どんな話をしようかなと、数週間考えて用意をしてきました。私が普段、肝臓をどんなふうに考えながら診療したり、あるいは勉強したり、学生に教えているのかという話と、肝硬変、肝がんの治療が今どういう感じになっているかをお話ししたいと思います。

1. 臓器としての肝臓

肝臓はどのくらい大事なのかをよく学生さんにも話をするこ

とがありますが、結構難しいのです。肝臓は非常に大きな臓器です。ご存じかもしれませんが、女の人で 1、200 g、男の人で 1、500 g ぐらいあると言われていいます。我々の脳は、どんなに賢い人でも 1、400 g ぐらいらしいですから、肝臓は生体内で一番大きな臓器ですという話によくします。ただ、大きさだけを比べても、偉いか、偉くないかはあまりよくわかりません。

脳というのは、確かに我々が日々生きていく上で重要で、悲しんだり、あるいは勉強したり、いろいろなことができます。脳の活動が停止したら「脳死」が起こり、死んでしまう。誰が考えても重要なものです。一方、肝臓は、そこにあることすら気がつかないものです。しかし肝臓がなくなると、人間は生きていくことができません。意識にはのぼらないけれども非常に重要な、化学的な働きをしている臓器です。脳は基本的に電気的な働きをしていますが、肝臓は強いて言えば化学反応を起こす、非常に重要な臓器です。

それから、生きていく上で何が

大切なかと考えると、やはり四肢というのも結構大事ですね。人間は物を運んだり、歩いたりすることによって人間になったというような話もあって、それまたぶんだ事だろうと思います。

肝臓が化学的に何をしているのかを簡単に言うと、体に必要なものを作り、体に不要なものを分解する。(図 1) そういうことを刻々とやっけていて、止めることができます。人間

社会でも工場や焼却炉が止まると破綻してしまします。それと同じことが起こります。

ざっくりとした例を挙げると、先ほど脳の働きが重要だと言いましたが、脳は実は糖だけを栄養素として使っている非常に特殊な臓

器です。血糖が下がると脳が働かなくなります。人間が食事をするのももちろん血中の糖分は上がるので、脳の働きは維持できるのですが、人間はずっと食べ続けているわけではないので、1 日の中でも絶食の時間があります。そのときの糖は、実は肝臓が作っています。図の「合成」のところに「糖質」と書いてありますね。これが止まると脳も働かなくなる。そういう例を

考えても、肝臓は脳や四肢と匹敵する重要な臓器です。そういう臓器の病気を扱ったりしているところが、先ほども米澤さんからご紹介がありました、日本肝臓学会になります。

どんな臓器の病気でも、働かなくなると「〇〇不全」といいます。心臓が悪くなると心不全、腎臓が悪くなると腎不全です。肝臓が悪くなると肝不全となつて、その代

肝臓の機能



図 1

肝不全: 肝臓の機能的破綻をきたした状態

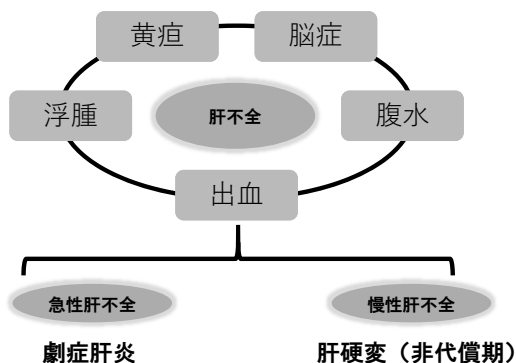


図 2

表的な症候は、黄疸、肝性脳症、浮腫(むくみ)、腹水、それから、なぜ起こるのかを説明するのは結構難しいのですが出血傾向(血が止まりにくくなる)。こういったことが起こります。(図2)

肝臓の病気では、急激に起こる場合と徐々に起こる場合があつて、急激に起こる、時間的に速い代表的な疾患は急性肝炎や劇症肝炎ですし、10年、20年、30年と、知らない間に徐々に進んでしまうと、慢性肝炎、肝硬変、非代償性肝硬変、肝がんとなっていきます。(図3)

原因には非常にいろいろなあつて、ウイルス性肝炎、太り過ぎ、栄養の摂り過ぎによる非アルコール性脂肪肝炎(NASH)でも起こりますし、無視できない非常に多い原因がアルコールの飲み過ぎです。それから特殊な病気として、免疫の異常や遺伝性のももあり、基本的に同じような経過をたどります。

2. 時代と合わせ見る 肝炎治療の歴史

来月に平成が終わるというこ
とで、この30年間はどんな時代だ

ったのか、日本のニュースや雑誌などでよく書かれています。こと医療の面で言うと、平成の30年間はC型肝炎の診療が画期的に進歩した時代でした。そもそもこのウイルスが見つかったのが平成元年、1989年です。それからインターフェロンの治療が出てきたり、ここ10年弱はDAA (Direct Acting Antivirals: 直接作用型抗ウイルス治療薬) という飲み薬

治療が出てきて、平成最後の年には、非常に難しい病気である非代償性肝硬変に對しても、C型肝炎の治療で安全に使えるものがようやく出てきました。

もう少し時代を振り返ると、来年開かれるオリンピックの前の東京オリンピック

クが1964(昭和39)年です。当時のことを覚えていらっしゃる方もここには多いのではないかなと思います。1964年は、肝臓病にとつていろいろなことが起こった年でもあります。1つは献血制度が始まっています。これは、東京オリンピックが始まる前の春に、駐日アメリカ大使のライシャワーさんが暴漢による怪我をされ

ました。当時は売血制度による輸血だったので、今でいうC型肝炎に感染しました。それがきっかけで、3〜4カ月ぐらいの速さで献血制度が導入されたのです。
B型肝炎のウイルスが見つかったのも、この年です。ブランバーという人が、オーストラリア原住民の血液の中に特殊な抗原抗体系があることを報告しました。当時、彼はそれが肝炎を起こすとは

肝臓の病気

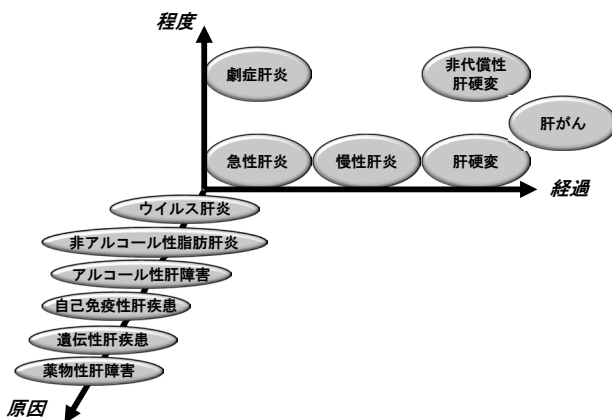
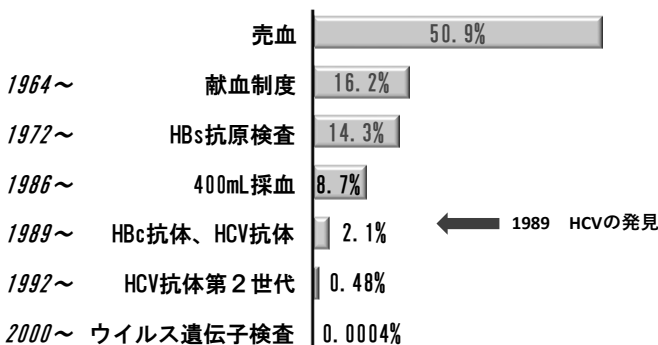


図3

日本における輸血後肝炎の発症率



Health, Labour and Welfare (Japanese governmental body)

図4

日本肝臓病患者団体協議会主催

肝炎患者のみなさん、ご家族のみなさん、
医療関係者のみなさんもふるってご参加ください

世界保健機構（WHO）の呼びかけにより、厚生労働省は毎年7月28日を「日本肝炎デー」に設定し、肝炎の蔓延防止、差別偏見の解消、感染予防など啓発活動を実施するよう呼びかけています。日肝協は患者団体として独自の「肝炎フォーラム」を今年も開催、肝炎の現状や問題点をみなさんと一緒に考えます。

日時 2019年7月27日(土) 13:00~16:00

場所 星陵会館 東京都千代田区永田町2-16-2
東京メトロ有楽町線・半蔵門線・南北線 永田町駅6番出口より 徒歩3分

参加費 無料

申込み 日本肝臓病患者団体協議会まで
電話、FAXでお願いします(裏面をご利用ください)

<プログラム>

開会式 主催者挨拶、来賓挨拶、メッセージ披露

講演「モンゴルにおける肝炎対策について(仮)」

講師 江口 有一郎 先生

佐賀大学医学部付属病院 肝疾患センター 特任教授

主催 日本肝臓病患者団体協議会 161-0033 新宿区下落合3-14-26-1001

TEL 03-5982-2150 (祝日を除く月・水・金 10:00~16:00)

FAX 03-5982-2151

定員 400名
要 申込み



第8回

世界・日本肝炎デーフォーラム開催

世界の肝炎患者と手を携え、すべての肝炎患者に社会的支援を！